

教科		選 定 理 由
各学科に共通する教科（共通教科）	国語	内容・分量・難易度が、生徒の実態および教科・科目の目標に即した構成となっている。生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を助けるために効果的な資料が収録されている。
	地理歴史	資料も適度にあるとともに程度が本校生徒の実態に即し、内容が教科・科目の目標に適合している。大学受験にも対応できる内容である。
	公民	
	数学	内容が教科・科目の目標に適合しており、また、程度が生徒の実態に即し、適切である。
	理科	内容が教科・科目の目標に適合しており、程度が生徒の実態に即し、適当である。かつ、成績上位者に対する発展的学習にも派生させやすい。また、教科の目標を達成するよう、適切な創意・工夫がなされている。
	保健体育	程度及び内容が生徒の実態に即し、適当である。
	芸術	内容が教科・科目の目標に適合しており、教科の目標を達成するよう、適切な創意・工夫がなされている。
	外国語	程度が本校生徒の実態に即し適当である。また、内容が教科、科目の目標に適合している。
	家庭	内容が教科・科目の目標に適合している。
	情報	内容が教科の目標に対し適切である。
主として専門学科において開設される教科（専門教科）	農業	本校生徒の興味・関心を喚起するための創意・工夫がなされている。農業に対する学習の導入として適切な教科書である。
	工業	
	商業	本文・図表・表現等がわかりやすく、オブジェクトなどを使ってわかりやすくなっている。内容の程度が生徒の実態に即し、適当である。
	水産	
	家庭	内容が教科・科目の目標に適合している。
	看護	
	情報	
	福祉	内容が教科・科目の目標に適合している。